

## 研修報告

二十八年度日帰り研修

### 国東半島 六郷満山の旅

五月十三日、新緑に囲まれた佛の里「国東半島 六郷満山の旅」が実施されました。参加者数は十六名。朝八時、いつもの通り城山三の丸を出発。一路国東へ。連休明けのせいか参加者が少なかったです。今回の訪問地は計画では宇佐、国東方面でしたが交通事情により急遽富貴寺、真木大堂、熊野磨崖仏、長安寺の四ヶ所に変更されました。初めの訪問地は「富貴寺」です。

#### 一、国宝 富貴寺大堂

昭和二十年四月のB二十九による空襲で裏山に爆弾が落とされ、大堂の一部裏手の角が燃えました。当時は樞かやの大堂であったため地域の人々がムシロ等をかけ雨風を防いでいました。その為壁画の傷みが激しいそうです。



この大堂は藤原期の養老二年（七一八）宇佐神宮大宮司宇佐氏の命により建立された木造建築です。

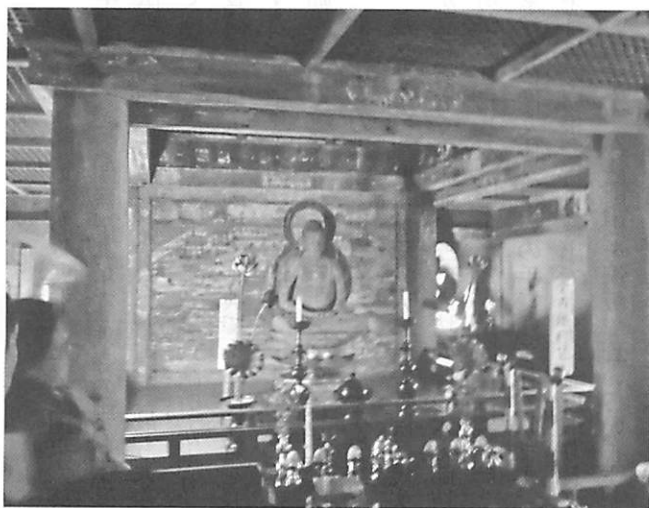
九州最古の建物で「富貴寺の阿弥陀堂」とも呼ばれ、京都の宇治平等院鳳凰堂 平泉の中尊寺金色堂とともに日本三大阿弥陀堂の一つに数えられています。

『露の大堂』ともよばれています。屋根の上に宝珠があり西叡山高山寺（廃寺）の末寺に属していました。伝承として、「斐陀の匠が、仁聞菩薩の命を受け、樞の巨樹を伐り、その一樹を以て大堂と阿弥陀如来像を刻み、その残り材で、真木の大堂と諸佛像を刻んだと伝えられています。大友の兵乱にあい大破、村人が修復し草葺き屋根になります。延宝五年肥前島原藩主 松平忠房が大堂を修理。明治四十五年大修理瓦葺きとなります。昭和二十年四月の空襲で大破。昭和二十二年大修理。昭和二十七年国宝に指定されました。

大堂の建物は『宝形づくり』と呼ばれ八角柱の形をしています。室内は四本の柱を建て内陣と外陣を隔てています。内陣後方は来迎壁と呼ばれ、その前に阿弥陀如来像が安座しています。外陣が内陣をめぐる構造は『常行三位堂の造り』と呼ばれます。大堂の内側の壁面には佛画が描かれています。平安時代のこの仏画は、宇治平等院鳳凰堂と伏見日野法界寺阿弥陀堂とも

に日本三大壁画と呼ばれています。主尊の木造阿弥陀如来は定朝方式による樞材の寄木造りです。

この大堂は、見た目には四角形に見えますが、四方の柱の角が削られ八角形の形をしています。このよう



富貴寺大堂の『阿弥陀如来像』と来迎壁

な建物を『角消しの建物』と言うそうです。

堂内の内陣は四本の柱で囲まれ、外陣の四方には薬師浄土、弥勒浄土、阿弥陀浄土、釈迦浄土の絵が描かれています。内陣の天井は格天井でした。

大堂の外左側には、奪衣婆座像と十基のお地藏さん（奪衣婆、初七日から七日までの地藏、閻魔大王、一周忌三周忌の地藏）が並んでいました。ガイドさんから、左前の着物、左右逆に履く足袋、逆柄杓、昔、納棺の時に納めていた晒し衣替えの起源など、死者についての作法も教えて頂きました。



石塔・卒塔婆



奪衣婆と十人の地藏

## 二、真木大堂

二つ目の訪問地である真木大堂は、国東六郷満山の  
中で最も大きな伽藍、馬城山伝乗寺の中の一寺でした。  
伝乗寺の伽藍の規模は、六郷満山中、最も大きなもの  
で、満山の僧たちが学問に励む『長講所』がありました。  
長講所とは天台宗の根本聖典である法華経を長日受講  
する学問道場の事で多い時は、三千人もの僧が勉学に  
励んでいたと言われています。伝乗寺には末寺八ヶ寺、  
三十六坊もの末寺・末坊があったと伝えられています。  
残念な事に、度重なる大火に合い寺院は焼失します  
が立石駅近くの床並に三十六坊の一つ六太郎坊という  
坊がありました。伝乗寺は中世の頃には衰亡したが、伝  
乗寺の仏像九体が村人の手で残されています。当時は  
茅葺きの屋根で村人総出で十年に一度取り替えられた  
といえます。今は屋根を銅板で葺いています。  
伝乗寺の仏像は、この茅葺きの本堂に祀られていま  
したが、現在は平成二十一年に新たに建てられたガラ  
ス張り二重扉の建物に保管されています。建物の入り  
口には天台宗の印である「菊の御紋」が附けられてい  
ます。では、仏像について少し説明してみましよう。



阿弥陀如来像

○木造阿弥陀如来座像

高さ二・一七m 檜材 寄木造り 彩色は金色。布張りの下地を施し、肉身は漆塗り 羅髪は群青色衣に朱が使われている。上品下生 結跏趺坐の丈六佛で顔はやさしい。肩幅ががっしりした平安初期の作、足は細身で平安後期の作であると言ふ。

○木造四天王像

高さ一・五八〜一・六六m前後のものです。  
 広目天 持国天 多聞天（毘沙門天） 增長天



大威徳明王像

○木造大威徳明王（後背を含めると二・四一mの高さ）

高さ一・二九m 六面六臂六足の大忿怒像である。人々を害する毒蛇、悪竜、怨敵を征服する力を持つ。手足が六本で額に目がある。檜の一木造りです。頭、体、腕、足を組み合わせたものである。台座の水牛は楠材で左右二体を組み合わせている。後の火焰後背は後の時代の物である。水牛の角は本物である。

## ○不動明王

高さ二・五五m 青不動 怪鳥迦楼羅を持つ。矜羯羅童子(高さ一・二七m) 制吒迦童子(高さ一・三七m)を二人連れている。



不動明王

大日如来の命を受けて魔軍を撃退し、災害悪災を除去、煩惱を断ちきり行者を守り、諸願を満足させる。二尊を従えた三尊形式である。彩色は江戸時代に補色されたもので檜の一木造りである。

天台宗系の不動で目を見開いている。旧茅葺きの大堂の時は本陣の左から不動明王、阿弥陀菩薩、大威徳明王と並んでいた。後背には胎内の悪徳を食べるという迦楼羅と呼ばれる鳥が住んでおり、炎と共に悪徳を消滅させるといふ。

以上九体の仏像は、大正七年国宝になり、昭和二十五年国の重要文化財になりました。

私たちは、次の訪問地である「熊野磨崖仏」に向かった。この真木大堂と熊野磨崖仏は、祭りの時、磨崖仏前から神輿を運び、真木大堂のあつた伝乗寺の社六所権現にまでを往復していたという。

### 三、熊野磨崖仏

豊後高田市田染にある天台宗今熊野山胎藏寺、この寺は六郷満山繁栄し頃、馬城山伝乗寺の末寺の一つでした。胎藏寺から十五分ほど山道を上った所に小さな無明橋という橋があります。さらに石段を三百メートルほど進むと熊野社の三社権現第一の鳥居につきまします。この鳥居には「奉寄進 鳥居一字」享保七壬寅元九月吉祥日 施主後藤木良兵衛」の文字が彫られており、当

時の面影を残しています。この鳥居から上は急な乱杭岩の階段が続き『鬼が一夜で造った階段』と呼ばれています。階段を登りつめた所に奥の院と呼ばれる熊野社があります。当時は神仏混淆こんぶうの時代でしたからこの熊野社も大変な参拝者でごったがえした事でしょう。

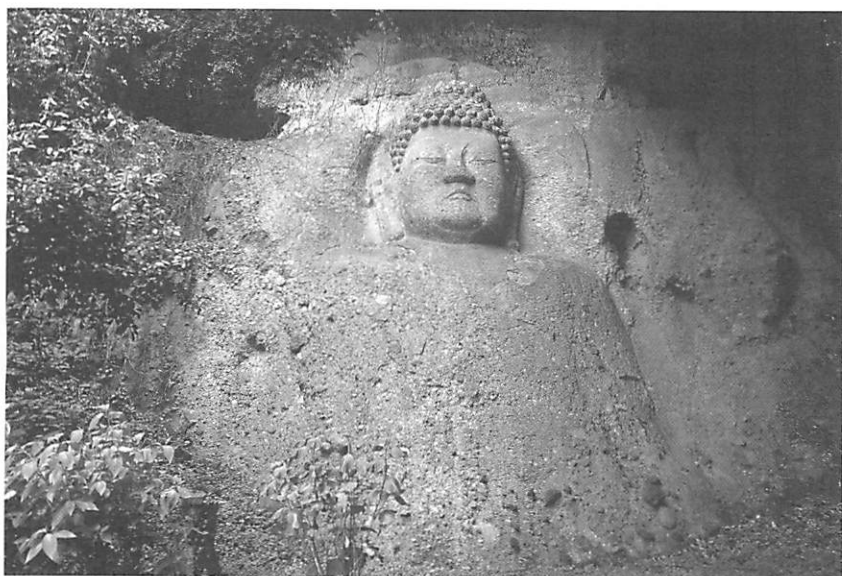
この奥の院熊野社の左手に熊野磨崖仏二体があります。一体は不動明王、もう一体は大日如来です。

当時熊野社の本尊は不動明王でした。後に大日如来像に変わっています。今も二つの像が人々の幸せを願い息づいています。熊野の谷には八つの坊があったと言われています。

### ○大日如来像

六、七メートル 高さ八メートルの龕がんの中に掘り出されています。頭上に種子曼荼羅しゅじまんぢらが刻まれ、髪は羅髪らぼうになっています。石は臼杵石仏うすきいがんの凝灰岩より堅く火山岩で作られています。

作成まで多くの人々の労力と期間がかかったと思われます。この大日如来像は隣の不動明王像より後の時代に造られたと言われています。



大日如来像

## ○不動明王

高さ8m この不動明王の顔には、他の明王像で見られる忿怒の相がありません。穏やかで慈愛に満ちており他の不動明王とはまったく異なっています。また像の左右には、高さ3m程の矜羯羅童子と制吒迦童子の跡が見られます。

磨崖仏の後には右手から左手にかけて横穴が掘られており、当時の修験者の生活の場あるいは通路であったと考えられています。



不動明王像

この二つの像のある前の広場は、六郷満山峰入り荒行の出発点として使用されています。

さらに磨崖仏の後背にあたる鋸山を越えた南山麓には妙善坊（馬城山伝乗寺三十六坊の一つ）があります。本尊は観音菩薩で、六郷満山秘境の霊地とされています。

私たちは、この磨崖仏の前でガイドさんから熊野名物「粗粉団子祭り」の由来を聞きました。熊野粗粉団子は、その昔、和歌山の熊野より神様が此の地に訪れるという話から、神様にお団子を供えようという話になり挽き臼で粉を挽き始めたそうです。ところが神様が思いの外早く到着することになり、製粉が間に合わず粗粉で団子を作ることになったとか。それ以来この熊野の地ではお祀りの時のお団子は「粗粉団子」とし、団子を物々交換して持ち帰るそうです。この風習は現在も行われているそうです。また、この磨崖仏の上にある三社権現では昔の神仏混淆の名残で、普通蠟燭だけを灯す権現様に蠟燭と線香の双方を灯すとか、宇佐神宮の神枕に使用する「マコモ」をきんぴらにして食べるなどの地域性豊かな風習のお話も聞くことが出来ました。

その後、私たちは最後の訪問地であるシャクナゲで有名な金剛山長安寺に向かいました。

#### 四、金剛山長安寺

このお寺はシャクナゲ寺として有名ですが、私たちが訪問した時は少し遅く数輪の花を残すのみでした。

平安時代、六郷満山本山本寺の統括をしていた西叡山高山寺が衰微し、満山の中核となった長安寺には満山の執行役が置かれ一千の僧を統率していました。

戦国末期、大友氏と黒田氏の戦い（石垣原の戦い）で、長安寺の上、尾山に城塞を築いていた吉弘統幸が討ち死にし、その後の吉弘軍と黒田軍の戦いで長安寺が消滅。元禄時代に豪田大和尚により復興されました。前庭に豪田和尚の霊を祀る立派な宝篋印塔が残されています。

長安寺収蔵庫には、長安寺奥の院の六所大権現の主神、太郎天像が明治の神仏分離の時長安寺にうつされ現在に至っています。

太郎天像は大治五年（一一三〇）に造られた梶の木で造られた木佛です。百二十人の人々の願いにより造



太郎天像と二童子像



像奉納されたと伝えられています。

太郎天と二童子像は、この長安寺の権現社（今の身濯社）の本尊で、不動明王、二童子を垂迹した関東地方独自の神像です。大きさは太郎天像が一六一、八センチ、童子像がそれぞれ九四、五センチ、九六、四センチの像です。太郎天像の胎内から不動明王の本と一木造りの佛二体が発見されています。

また、収蔵庫には保延七年（一一四二）の銅板法華經（国指定重要文化財）が十九枚ありました。

この銅板の説明書きには作者紀重水の名で次の様に書かれています。

「六郷分料 銅五百九十瓦 保延七年歲 次辛酉  
四月 廿八日始之 同年九月十四日供養 石清  
水物別当僧暹意」

この意味は、「六郷満山から銅を保延七年に預かり、四月二十八日から銅板法華經を作成し、その年の九月十四日に完成、奉納供養した。担当は石清水八幡宮の惣別当の暹意です。」と考えました。

この長安寺には、この他に修正鬼会で使う面が保管されていました。六郷満山では各寺毎に面があり修正

鬼会を行っています。

裏山の尾山は、都甲耶馬と呼ばれる山で、長安寺の参道と尾山の登山道が一つになっています。参道のつきたところに『大ガンギ』と呼ばれる巨大な石段（長方形の巨大な自然石）があり、山岳修業の第一歩でした。



この六郷満山は、宇佐八幡宮の本地垂迹説をうけ神仏習合を醸成、権現信仰を広めたものです。開創は養老二年(七一八)仁聞菩薩が六十五天台寺院を建立し、六郷の山々に入峰修行させ二十八寺を開基したとされています。(豊鐘善鳴録巻五)

六郷開山仁聞大菩薩本紀や宇佐宮託宣集王巻にも記されています。この時の六郷は安岐(阿岐)、武蔵、国前、伊美、田染、来縄です。また満山とは佛の淨域に満ちみちた寺院の集合体を言い境内に「六所権現社(身濯神社)」を有します。

元寇の時、六郷満山六十五寺、八百坊、二千人以上の寺僧が国難打開と祖国繁栄の大祈願を長期にわたって行い、その恩賞として朝廷より「菊花の紋章」が下賜されました。現在の真木大堂旧本堂と今熊野山胎藏寺とあと一ヶ所(国東半島)に掲げられています。寺の組織は本山本寺八ヶ所、中山本寺十ヶ所と末山本寺十八ヶ所の三十六ヶ所です。

本山本寺は学僧の養成と統率的な職務を持ち中山本寺には山岳修練の行を実践する僧がおり、記録などの職務を持ちます。末山本寺は在家の大衆と接しつつ

修行します。このように仕事分担を明確にしています。

本山本寺、中山本寺、末山本寺の下には、夫々本山末寺十八ヶ所、中山末寺十一ヶ所、末山末寺八ヶ所の三十七の末寺がありました。更に坊や院がありました。この末寺・末院のうちの三十七ヶ所が満山組織に組み込まれ全体で六十五ヶ寺を構成していました。

今回訪問した金剛山長安寺は中山本寺です。蓮華山富貴寺は本山末寺、熊野磨崖仏のある今熊野胎動寺は本山末寺にあたります。真木大堂は本山本寺になりますが大元の馬城山伝乗寺が消滅しており、その本山本寺の遺構となります。

お寺の盛衰は地域の人々の応援だけでなく、火災戦災により影響されます。六郷満山で伝えられてきた修正鬼会のお祭りも隔年となり、中止の話も出ていますか。